



風の子 太陽の子

浜松市立相生小学校

令和4年6月30日

♡ かけがえのないたった一つしかない命を
みんなで大切にしていきましょう ♡

校長 鈴木晶子

浜松市では6月12日を基準日として「命」について考える教育をしています。相生小学校では、6月6日（月）から10日（金）を「命について考える週間」とし、『命の大切さ』について考えました。朝会では、お母さんと産婦人科の先生が「お腹の中にある赤ちゃん」を見ながら、「これが足ですよ」「これは心臓の音。元気ですね。」と会話をしている映像を見せました。お腹の中の赤ちゃんの力強い心音を真剣に聞いていました。



また、一昨年度赤ちゃんを産んだ遠藤美佐子先生と塩崎恵奈先生から、お母さんや家族はどんな思いで赤ちゃんを待っていたのか、生まれたときの様子や気持ち、名前を付けた理由などを話していただきました。命は一つしかない、なくなってしまうたもとには戻すことはできないこと、そして、私たちの命は、お父さん、お母さんから、お父さん、お母さんはおじいさん、おばあさんからというように、ずっと受け継いできたものであり、みんなも結婚して子供へと、ずっと受け継いでいかななくてはいけない大切なものであることを伝えました。世界にたった一つの大切な「命」、自分の命、友達の命、家族の命、周りのみんなの命を大切にできる相生の子に育てていきたいと思ひます。

「心の日」には、名前の由来や生まれた時の様子を紹介し合うことができました。子供たちのインタビューへの御協力ありがとうございました。これからも相生小では、保護者の皆さん、地域の皆さんと共に「命」の教育を進めてまいります。

「たいち」の「泰」は優しいということです。「知」は「知りたい」ということです。お母さんは、「無事に生まれてきてくれた」と思ったそうです。それを聞いて、ぼくはもっと勉強しようかなと思ひました。（1年生）

「樹」という漢字は、大きい木という意味があります。その字と同じようにまっすぐ強い子になってほしいと思ひたそうです。ぼくは、自然が好きです。草、花、植物が好きです。それに体育が好きだから強い子になりたいと思ひます。無事に生まれてよかったです。（2年生）

「菜結」の「菜」は、菜の花の「菜」。菜の花の花言葉は小さな幸せ。「結」は結ばれると意味があり、小さな幸せで結ばれてねという願ひが込められています。小さな幸せも大切にしたいです。学級のみんなの名前にもいろいろな意味があつていい名前だなと思ひました。（3年生）

「湊」には、人や物が集まる、活気に恵まれるという意味があります。母は、ぼくが生まれて無事に生まれてうれしくて、「可愛い、とにかく健康であつてほしい」と思ひたそうです。命はとても大切なんだということが分かりました。（4年生）

「祐」の由来は、人を助ける。「宇」の由来は宇宙みたいな広い心で。この名前に込められた思ひを聞いて、もっと広い心で困っている人がいたら助け合いたいと思ひました。名前の通り、優しい人になりたいです。（5年生）

5月に生まれました。暦で5月は「さつき」といひます。咲月の「咲」は「咲う・わらう」という読み方もあるそうです。両親が一生懸命考へて付けてくれたことがうれしかったです。自分の名前に誇りをもって生きたい。いつも明るく誰にでも笑顔で楽しく過ごしたいと思ひます。（6年生）